

かんしょの挿し苗育苗における増殖技術

かんしょの切り苗を密植（80株/m²）して増殖することで、種いもと同等の採苗数が確保できる

背景・目的

- 自家種いもの活用が主流となっているかんしょの育苗では、サツマイモ基腐病が拡大するなかで、健全な種いもの確保が難しい状況が生じており、種苗会社等から購入した苗を効率的に増殖する挿し苗育苗技術の開発が求められています。
- 挿し苗育苗における栽植様式の検討並びに採苗・挿苗時間を確認しました。

成果の内容

- 挿し苗育苗における栽植様式は、1穴2本植え、80株/m²の密植で最も採苗数が確保でき、種いも育苗と同等の採苗数となります。（図1）。
- 1m²あたりの挿苗時間は、密植>標準>疎植の順で長くなりましたが、標準において1穴あたりに2本、4本とまとめて植えると、挿苗時間が短縮できます（図2）。
- 栽植様式が異なっても、苗長、茎径及び採苗時間に差はありません。

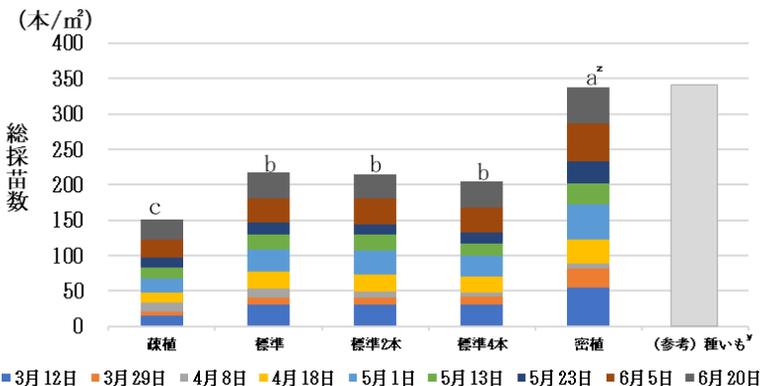


図1 試験区及び時期毎の総採苗本数

z : Tukeyの多重検定により、異文字間に5%水準で有意差あり
y : 種いも区は、2021年試験データ（1回あたりの採苗数37.9本）を元に試算

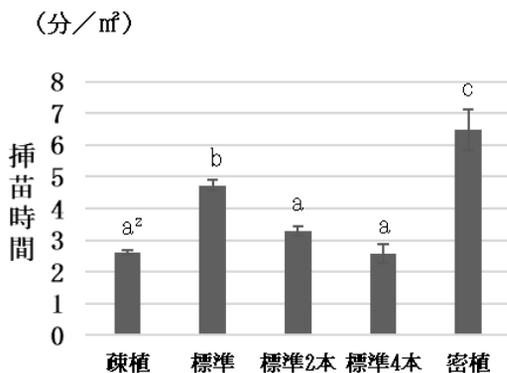


図2 1m²あたりの挿苗時間（2024年）

z : 図中の異文字間にはTukeyの多重検定により5%水準で有意差あり

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 挿し苗育苗の実施により、病害発生リスクを低減することができます。
- 切り苗を密植して増殖することにより、効率的な挿し苗育苗ができます。
- 普及対象地域 北諸管内のかんしょ生産者

留意点

- 挿し苗育苗の親株（切り苗）の購入数を最小限にした場合、種いも育苗より約2ヶ月育苗開始時期を早める必要があります。

関連研究成果カード：2025年度整理番号10

関連事業名：かんしょ輸出産地を支えるサツマイモ基腐病総合的防除体系の開発（国庫）

研究期間：2022～2024年度